

〈推進委員会報告〉

教育会あり方検討委員会

委員長 梅田 久仁

一 研究テーマ

「魅力ある教育会のあり方を求め、伝えていく」

二 研究のねらい

本年度、教育会あり方検討委員会では、「魅力ある教育会のあり方を求め、会員に広く伝えていく」という昨年度のテーマを継承し、活動に取り組んできました。魅力ある教育会とは、『会員が積極的に各事業に参加し、諸活動を通してより多くの先生方と出会い、研修し、情報交換や研究会等でお互いが切磋琢磨し、高め合える仲間関係を築いていかれる会』ではないかと考えます。そして、そのことが子どもたちへの今後の指導に活かされるとともに、私たちの職能の向上に繋がっていくものと確信しています。

そこで、本委員会では、他郡市から来られた先生方や新規採用の先生方に、更埴教育会の魅力や内容を知っていただいたうえでより多くの先生方に会員になっていただくためにはどうしたらよいか…について考えました。また、現在会員の先生方に対しても、さらに良い点を知っていただくにはどうしたらよいか…について考え、本年度行われた教育会の行事や事業内容を検討してきました。

加えて、一般社団法人化に伴う「公益性を加味した教育会の今後のあり方」についても提案することをねらいとして、本年度の活動を行ってきました。

三 研究の経過

1 本年度の研究事項

(1) 各事業のよさを伝えていく

- ① よさは何か…事業を分担し、調査・研究する。
- ② よさを伝える…伝え方を検討。「教育会だより」の発行・リーフレットの配布。
- ③ 加入の呼びかけ…各校代議員の協力、教育会だよりやリーフレットの配布。

(2) 教育会長から諮問された内容について、研究・調査し、答申する。

(3) 「魅力ある教育会のあり方」を教育会に提案していく。

2 研究の経過

(1) 第1回委員会 5月2日(月)

組織づくり。研究内容の決定。研究推進日程の決定。

(2) 第2回委員会 6月16日(木)

今後の推進計画の立案。調査・研究の方法と分担。

教育会だより第1号の内容検討。

- (3) 第3回委員会 9月26日(月)
調査・研究について報告。教育会各事業の良さの確認と改善点の内容検討。
教育会だより第2号の内容検討。
- (4) 第4回委員会 11月1日(火)
中間報告書の内容検討。教育会だより第3号の内容検討。
- (5) 第5回委員会 1月20日(金)
来年度の教育会リーフレットの検討。調査・研究のまとめ。

四 研究内容および答申（今後の課題を含む）

11月18日(金)の教育会理事会および総会へ、次の内容を「中間報告書」として提出しました。

1 教育会総集会・新入会員歓迎会についての提言

- (1) 会員の参加者数は昨年度と同程度だった。教育会総集会は、会員の研修の場として大事な位置づけになっているので、会員一人一人が意識を高くもち、自ら参加したいという場になるよう、事前の宣伝をしっかりと行い、各校でも参加の働きかけを行っていくことが必要である。
- (2) ここ数年実施されてきた教育研究会の発表は、会員募集の時期とも重なり各教育研究会がPRするよい機会である。引き続き教育研究会の活動内容を発表する場として活用し、会員に活動内容を知らせていきたい。
- (3) 講演会は、会員の希望が多かった知名度のある講師をお呼びすることで、会員も一般参加者も参加したくなる会になる。費用が高額になるという点で課題はあるが、今後も会員や一般参加者が聴きたくなる講師を選定していきたい。また、一般社団法人として、公に対する働きかけが求められているので、HPの活用やチラシやポスターの中にQRコードを入れるなどして、一般の方にもより積極的に呼びかけられるようにしていく必要がある。
- (4) 総集会後の「懇親会・新入会員歓迎会」は、新入会員と先輩の先生方が知り合う場であると同時に、会員相互のコミュニケーションを深めるよい機会でもある。今後も継続したい。また、信濃教育会からも来賓がお見えになるので、新入会員は全員出席できるよう声をかけていくことが必要。また、新たに更埴に異動された先生方にも声をかけ、各学校において積極的に参加の勧誘をしていきたい。

2 教育を語る会についての提言

- (1) 本年度は改善されたが、例年、初任研や市の研修会が重なることも多く、参加したくても参加できない先生方も出てしまうことが残念。来年度も日程の調整をしてほしい。特に、新卒の若い先生方にとってはたいへんよい研修の場であると思われる。他郡市に異動した後も、この更埴教育会の「教育を語る会」のよさを経験していくことで、他郡市へのアピールにもなると思われる。
- (2) 他郡市から来られた先生方にとっては、更埴独自のこの会がどういう会なのかわかりづらく、参加意欲がもてない姿も見られる。PR活動を工夫して参加者を増やしていく必要がある。たとえば、参加者が必ず書く感想記入用紙の中で、

「出てよかった」という生の声を教育会だよりやホームページで紹介していくことは、有効であると思う。

- (3) 分散会の運営については、司会者の先生に任されるところが大きい。世話係の先生、記録者の先生も含めて、運営側が負担に感じるような会であってはいけない。いちばん大切なことは、「参加者が語りたいことを自由に語れる雰囲気づくり」だと思われる。
- (4) 「午前のみ参加」という先生方が多く残念。毎年、反省で参加者の人数が話題になるが、最も注目すべき参加者数は分散会の参加者数である。この人数を増やすための呼びかけや工夫がさらに必要ではないかと思われる。
- (5) 懇親会が3：50から始まっているのに、動向表には「一日研修」として提出してある。日程を変更する方向で検討したい。

3 教育研究集会についての提言

- (1) 更埴教育会だけでなく、他団体やPTAの方々にも参加していただき、更埴地域全体の教育力向上について意見交換を深めていくうえで、他団体やPTAとの連携をいっそう大切にしていき、参加要請を積極的に行っていく。
- (2) PTAの方の参加については、学校によって呼びかける範囲や方法が異なり、参加者の人数に差がある。参加範囲を広げるなど、より多くのPTAの方に参加していただけるような要請のあり方を各校で工夫していく。さらに、各校にすべて任せるのではなく、郡Pを通して各校の参加者にあまり差が出ないように協力を依頼する等の配慮も必要である。
- (3) 分科会によって、参加人数にずいぶん偏りがあり、10人に満たない分科会もあった。人数が少ない分科会については隔年実施にするなど、参加人数と分科会数の調整や工夫をしていく必要がある。
- (4) 分科会の内容については、年々参加者にレポートをお願いするのが大変になってきている現状がある。レポートの発表だけでなく、体験的な活動を取り入れたり、講師の方に専門的なお話をお聞きしたりするような内容面での工夫をしたことで、「楽しく参加できた」「理解が深まり有意義だった」などという感想が多く寄せられている。来年度も、レポートだけでなく参加者が関心をもって参加でき、参加してよかったと思えるような内容や運営を工夫していきたい。
- (5) 会場については、屋代中、戸倉上山田中、坂城中、更埴西中の4校で回していく方向で考えていく。ただし、戸倉上山田中は校舎改築に伴い、当面の間、順番を飛ばして残り3校で回していく。

4 教育研究会についての提言

会員数が横ばいである。大きく減少することもないが、重複して加入している会員も多くいるため、このままでは少しずつ減少する傾向が現れると考えられる。そのための方策も検討課題。

- (1) 以下の方法により、教育研究会の活動内容をPRしていく。
 - ・ 教育会総集会の発表により、会員みなさんに教育研究会の活動について具体的に知っていただく。
 - ・ 教育会だよりの「教育研究会の紹介」記事により、それぞれの教育研究会の活

動内容について知っていただく。

- ・ 教育会のHPにある教育研究会の情報サイトにより、それぞれの教育研究会の活動内容について知っていただく。
- (2) 年度当初に配布する教育会のリーフレットに、教育研究会の紹介（PR）ページを差し込んで配布するようにする。差し込みのページは、A3ウラオモテ（A4で4ページ分）、カラー印刷とする。
- (3) 教育研究会の加入者を増やしたり、活動を充実させたりしていくためには、会員同士の積極的な声かけがとても重要である。更埴での勤務年数が少ない先生方にとっては、会報やチラシ等を読んでも伝わりにくい教育研究会の魅力や活動内容を直接聞くことによって、より具体的にイメージできるのではないかと。とくに若い先生方に声をかけて、組織の活性化を図りたい。組織の継続した活動の中にも、人の入れ替えがないと毎年同じ人が事務局を繰り返し担当しなくてはならず、負担感も増してしまうおそれがある。
- (4) 夏休み集中日は、今後とも、各校年間計画に位置付けていただくようにする。また、「教育を語る会」をはじめ、他の研修会や、対外的な行事とできるだけ重ならない日になるよう配慮していただく。各教育研究会事務局も参加率が上がるよう、会員が参加しやすい内容を考えたり、日を選んだりする等、工夫した取り組みを心がけるようにしていく。

5 全郡研究会についての提言

- (1) 全郡研究会の開催時期が夏休み明けで、小学校の運動会前の時期や中学校の文化祭前の時期と重なってくるので負担が大きい。そこで、開催については例年どおり隔年でよいが、時期を9月上旬開催から11月初旬～中旬開催に変更したい（昨年度は8/31）。
- (2) 過去の答申を受け、先生方の負担軽減という視点から、全郡研究会の会場校を5校→4校（小学校2校・中学校1校・特別支援学校1校）となった。こうすることで、教育課程研究協議会・全郡研究会の指定を受けない学校が複数校でき、その該当校は自校の教育課題解決に向けじっくり課題を洗い出しながら、課題解決に迫る研究を学校全体で取り組むことが可能となる。そこで、次の全郡研究会の会場校も4校が妥当と考える。しかし、先生方の負担軽減の視点も考えると、将来的には「4校→3校へ」減らしていくことも検討していきたい。ただし、会場校数を減らすためには、100名以上の参加者を受け入れられる公開授業内容を会場校ごと計画的に工夫していく必要がある（3校にする場合は、1校120～130名の参加者になることが予想される）。
- (3) 全郡研究会は、あくまで「学校独自の教育課題解決に向け、学校全体で取り組んでいる内容が研究の中核に据わった公開であること」を引き続き各校に徹底する。そして、教科や領域にとらわれない自由な発想で独自の特色ある研究が進められるようにしたい。
- (4) 全郡研究会の主催は更埴教育会なので、厳密に言えば会員ではない先生方には関係のない研究会だが、現状は授業校も参加者もほぼ全員が何らかの形でかわる会となっている。全郡研究会自体はとても価値があり、今後もぜひ継続し

ていつていただきたいことから、教育会の単独行事としてではなく、更埴校長会も後援または共催という形で名前を入れれば、更埴郡市内の先生方すべてがかかわれる研究会に位置付くのではないか。

6 会報・会誌・社会科資料集等の出版物についての提言

- (1) 千曲市・坂城町の社会情勢が刻々と変化してきている中、社会科資料集『わたしたちの郷土』に掲載されている各種資料も、それに合わせて定期的に見直し加筆・修正・変更をしていきたい。
- (2) 社会科資料集が教育会の資料作成委員会で作成されていることはほとんど知られていない。現場の教師が今の更埴地区の子どもたちに合うように資料を作製しているところに大きな意味があると考え。年間600～700部発注がないと単価がさらに上がってしまうので、単価は高いが、作製している意味や願いを理解してもらうためのPRを工夫し購入拡大につなげていく必要がある。代議員を通してPRするのも一つの方法である。
- (3) 社会科資料集の単価を下げるために、教育会から補助は出ないだろうか。

7 ホームページについての提言

- (1) 「教育会だより」に更埴教育会ホームページの「リンク先」、「QR Code」を載せ、手軽にアクセスできるようにする（10月号から試行中）。
- (2) 各教育研究会の活動の様子・感想等をホームページにアップし、教育研究会の良さをPRする。
- (3) 指導案や学習カード、実践事例の紹介などを掲載し、ダウンロードできるようにする。
- (4) 教育会補助金申請書をPDFファイルではなく、ワードまたはエクセルファイルにし、ダウンロード後、直接入力できるようにする。更埴教育会ホームページへの関心を高め、活用を図っていくために、「教育会だより」等でホームページの存在をアピールしていきたい。
- (5) 各教育研究会の活動の様子をホームページでアップしていくことで、教育研究会の良いPRにもなり、研究会への関心をより高めていけるようにしたい。また、実践事例の紹介や学習カードのダウンロードなども検討していきたい。

五 委員会の構成

世話係 南澤 博（南条小学校長）

委員長 梅田 久仁（南条小学校）

副委員長 古畑 祐二（埴生中学校）

委員 小池 辰弥（戸倉小学校）

安藤 晴夫（八幡小学校）

栗田 哲之（屋代小学校）

中村加津子（上山田小学校）